特104
752

因果比較形

371
255

始

通俗和讀

善惡因果の枝折

全

一冊代金〓錢也

美本施本的當なり

一枝折は總ふりかな附にて婦女童兒誰にも讀めます
一枝折は諸衆の因緣因果の妙說を和讀を爲して善根培增を計かる
一枝折は老若男女婦女童兒方に至極好適の施本なり
一枝折は法施の其一に當り於盆二季の彼岸正月年始の使ひ物其他御會式、年忌法要、說敎、布敎の時に施本として至極宜し
一枝折は宗門の御信者必讀の良書なり
一枝折は一冊代金〓錢也郵稅二錢十部以上施本用に御購求の御方は御照會を願ひます
一御爲替は「身延郵便局」へ振込み受取人は身延中谷圓臺房小泉是敎宛に必ず御記し願ひます御照會等は往復はがき又は切手封入で願ひます

發行所
取扱所

山梨縣南巨摩郡身延山中谷圓臺房

小泉是敎

特104
752

因果の枝折

凡そ此世へ生れては貴賤貧福たしなべ
無病長生錢金を誰しも願ふことなれど
病身夭死貧乏を いやでもするのは何故な
前世で我身が蒔置し種が此世へはへるなり
誰しも我身を省よ今の我身の苦と樂は
前世に蒔し種なるぞ今作す業の善惡は
後世の苦樂の種となる惡種蒔かぬ用心は
僞りいはぬにしくはなし若も人目をかざるとて
口と心がちがひなば早く心をあらためよ
惡事をかくしてよい樣に人目をかざりて濟すとも

大正
1.12.19.
内交

神と佛と心とに
此神國に生れては
かげとひなたのなき樣に
唯何事も正直の
さあらば敢て禱らずも
神や佛に守られて
子孫繁昌福德の
因果の道理を信ずれば
鏡にうつしみる樣に
此世で錢金持つ人は
前世で善種まかざれば
此世で施しせぬ人は

問はればいかゞ答ふべき
別て正直第一に
物事律義ひかへめに
頭に神はやどるとや
神佛守り給ふらん
無病長生安穩に
種まく樣に心せよ
我身の上も人の身も
過去も未來もみゆるぞや
前世の種のはへしなり
此世で貧苦にせまるなり
來世で貧苦にせまるなり

三世因果は目の前ず
今年はゆたかに暮せ共
來年飢におよぶべし
善惡因果うごきなく
利口で富貴が成ならば
鈍なる人にも富貴あり
貧乏で子供が多くあり
いづれも前世の種次第
權威ずくにはなりがたし
なさけに大小あるゆゑぞ
非道に大小あるによる
貧福二ッにはへ別る

去年豐年の潤ほひで
今年耕作怠らは
遲き速きはあるとても
毛筋も違ず報ふなり
鈍なる人はみな貧か
利口な人も貧をする
富貴で子供のなきもあり
我まんや力や錢金や
富貴に大小あることは
又貧賤の大小も
善惡二ッにまく種は
凡そ因果の理を知るに

小因大果といふことを
譬へば一粒まく種に
少しの罪をもおそれねば
作す善根は少しでも
なづらへ知りて用心し
少しの罪をもつくしみて
悪は根を斷ち葉をからし
榮んことを願ふべし
大罪ばかりを科と知り
とゞむる心なきときは
桶一杯に成るごとく
終に地獄の業と成る

よく〳〵心得給ふべし
實の數たほくむすぶにて
むくふ苦患はかぎりなし
多くの幸得ることも
虱や蚤を殺さずに
小善とても積みたまへ
善の芽ざしに培かひて
かくる謂をわきまへず
少しの罪は常として
水のしたゝりいつのまに
小罪とてもたそれねば
少の善がつもりても

無量の果報を得るごとし
易といふ書に說き給ふ
慈悲善根の種をまけ
穀物こりたる例なし
自然と生たるためしなし
五升や一斗は實るぞや
果報は倍々あることぞ
福德圓滿かぎりなし
吳るごとばかり思ふなよ
吳るも貰ふも因緣ぞ
みな是浮世の習なり
むかし長者と思ふべし

聖人孔子も此わけを
後世と子孫を思ひなば
種物惜んで蒔ずして
田畑に五穀をまかずして
種物一升まきたけば
しからば少しの施しも
況や施しおほければ
其施しをするときに
借り物返すと思ふべし
貧賤富貴のあり樣は
今貧賤のそのひとは
富貴も永くつゞかねば

さかんに暮す其内に
貧乏になりても名は殘る
いか程貯へたくとても
神や佛へ奉納の
現世の子孫の繁昌と
可なりに暮す其内に
慾にかぎりは無きものぞ
事足を知れよとの
貧であがくは是非もなし
多くの財をゆずりても
程なくのこらず賣拂
少しも田畑ゆづられど

堂寺宮へ寄附すれば
金銀田畑山林を
衰へぬれば人のもの
品のみながく殘るぞや
我身の後生を思ひなば
なるたけ施しするがよし
あればあるほど足ぬもの
佛のをしへを辨へよ
持てあがくぞあさましや
其子の魂あしければ
親や妻子をなげかする
天晴仕だすものもあり

いかに我子を思ふとも
錢金たほくゆづるより
神や佛のあづかりて
子孫へ渡し給ふぞや
人をたをさず施行せよ
人の恨のかくるゆゑ
升や秤や算盤や
天地の眞理に照されて
愧て恐て慎しめよ
虚ほど人の瑕はなし
正直ほどのたからなし
人はみめよりたゞ心

其子のたましい次第なり
善根たほく積置けば
利に利を加へたほくして
子孫の爲を思ひなば
無理してためたる金錢は
却て子孫のあだとなる
筆のさきにて無理すれば
遁るゝ道はなかりけり
美目はよくても富貴でも
形はあしくも無こつでも
高き賤しきたしなべて
正直柔和といはるゝが

上なきてがらと思ふべし
萬國無比の國體と
士農工商うれ〳〵の
其まゝ國恩報謝なり
天子の御恩を報ぜよと
世間多くの人々の
貪瞋愚痴の三毒ぞ
あまり過分な利をとるな
生のうちはすむけれど
死ぬれば餓鬼や畜生や
屋敷に草木が生へしげる
非道は子孫のあだなるぞ

我が日の本に生れては
天子の御恩をわすれずに
家業を大事に勤むるが
佛も四恩のそのなかに
最と丁寧に説かれたり
其身のあだとなるものは
錢金ありて貸す人も
人に非道をする者は
死ぎは苦痛すさまじく
修羅や地獄の苦を受て
たとへ草木ははへずとも
親の非道が子にむくふ

例は世間に數あるぞ
前世にまいたるよい種と
先祖の苦勞の御蔭なり
幼時より身にかへて
子供の魂あしければ
子ゆゑに迷ふたやたちは
なれども子供は愚にて
知りたる道に迷ふては
博ゐき打たり色ぐるひ
身の分限をわすれては
政府のとがめを蒙りて
難儀をかけるのみならず

おの〳〵榮花に暮すのは
家業大事に勤むると
たやは物ごと子のためと
子のためばかりはかれども
たやの心は闇ならで
世間にたほくみゆるぞや
大恩ありとは知りながら
とかく不幸をするぞかし
又は惡所へ通ふては
放埒盡すあげくには
親類組合所まで
我が身代はちり〳〵に

田畑家財屋敷まで
親のなげきはいかばかり
鳩には三枝の禮があり
親に不幸の子供こそ
親を持ちたる人々は
親の心を休ませよ
無益なことを打やめて
父母の身の上祈るべし
ばくちや悪所の遊やら
名聞おごりに遣ふには
慈悲善根の一文は
子や孫仕附る思ひして

他人のものとなりぬれば
不幸といふもあまりあり
烏に反哺の孝あれば
烏や鳶にも劣るなれ
なるたけ身持を大切に
兩親達者なうちにはや
善根功德を心がけ
無益な事とは何々ぞ
衣食住にぞ奢るなり
多くの費をいとはねど
生爪はなす思ひなり
親の菩提をとむらへよ

出家沙門の行乞や
眞實心でほどこせよ
まさる廣大功德なり
貧女の一燈功德あり
必恩にはきせるなよ
恩にきせれば德うすし
つく〳〵考へみたまへよ
時節來れば是非もなし
捨て冥途の旅立ぞ
耳もきこえず目もみえず
闇路に迷ふあはれなり
罪過業がむくひきて

乞食非人の來るときは
名聞寄進の千兩に
長者の萬燈供養より
何程施しするとても
我身のための施しぞ
是や人々目をふさぎ
いかなる大福長者でも
金銀財寶妻子まで
めいどのたび立する時は
行衛も知れぬ死出の山
此時一生作りにし
病苦や死苦に責られて

七顚八倒するときに
さらにかへらぬこゝぞかし
助合力のならざれば
菩提の種をまきたまへ
草葉の露にこゝならず
直に死病と成るもあり
暮に頓死をするもあり
明日は我身のさうれいぞ
みゐ是無常のものなれば
心によく〳〵合點して
無常〳〵とみな人が
心にたしかにしらぬゆゑ
いかに後悔するとても
後生はてんでのかせぎにて
こかく命のある内に
人の命のもろきこゝ
今宵頭痛が仕初めて
朝に喧嘩をせし人が
今日は他人の葬禮し
財寶妻子わが身まで
賴すくなき娑婆界と
無理なこんよくかはくまじ
口へかしこくいひながら
俄に無常にさそはれて

可愛孫子にたくれたり
世にない事のある樣に
やるかたもなきかなしさに
かなしみ思ふも過ぬれば
ほどなく元のもくあみと
放埒邪見をたこすなり
手綱ゆるさず引しめよ
かなりに暮す人々も
貧者に施しなさけせよ
我身や子孫の祈禱なり
佛の慈悲に守られて
自然ささはりはなかるべし
いとしい妻子にわかれては
ともに消にたきもひにて
尼法師にもなるべしと
いつしかそれをもわすれはて
なるのみならず更になほ
人の心は春駒の
福者は勿論こん日を
分相應にたよぶたけ
慈悲善根はそのまゝに
さあらば神の方便と
惡鬼魔緣も近づかず
かしら立たる人々は

わけて所の後家やもめなるたけあはれみすくふこう情は人のためならず世間に乞食する人も人の喰ひさし捨る物前世で邪見と慳貪と其種此世へはへてきて暑さ寒さにくるしみてさながら餓鬼のあり様ぞ染〳〵不便と思ふべし世界に他人といふはなしまたは兄弟しんるゐに難儀の病者や貧人をゆたかに暮す因とされ則ち孫子のためとなる願ひ好んでしはせぬぞ貰ふて命つぐひとは非道の種を蒔きし是非なく門戸に立迷ひ生れしかたちは人なれどそのあり様を見るならば宿世の因縁きく時は前世のわれらが父母かいづれ因縁あればとそ

たよつて來ると思ひしれ施しとてもするならば我身の果報は莫大ぞ果報をおほく積む様に親や我身の後世菩提善根功徳のよい種を大小上下の人〳〵のなければ人が人でなしとかく心のまくならず明日の請合ならざればなにを置きても用意せよ三度の食の用意をば此心得で手のうちの施す品は少しでもとても施しするならば眞實心にほどこせよ子孫繁昌ねがひなば澤山まきたくやうにせよ分に應じて仁心が此世に堪忍世界とて殊更老少不定にて永い未來の浮き沈み冬のわた入夏ひとへ忘れずとゝのへ置ながら

271
255

一大事なるりん終の用意忘るゝ愚さよ
來世といへばみな人がはるけき事とこたもへども
吹息一ッかへらねばその場が直に未來ぞや
常がね因果の理を知りて何時命がをはるとも
心やすゝ其まゝに業にひかれて行くときは
きつと善處に生るべし少しもうたがふ事はなし
是を疑ふそのひとは邪見の雲の晴れやらで
未來後生の末までも佛や菩薩の御教へに
救はる時はなかるべし

因果の枝折

終

大正元年十二月廿五日印刷
大正二年一月一日發行

定價金〓錢

編輯兼發行人　山梨縣南巨摩郡身延村　圓臺房　小泉是教

印刷人　山梨縣甲府市常盤町十番地　萩原光太郎

印刷所　山梨縣甲府市常盤町十番地　山梨印刷株式會社

終